



発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第318号

旅をしましょう。夢を追いましょう マヘル神父

毎年巡ってくる待降節とイエスの誕生の祝い、驚くべきストーリーです。神が私たちの中に一人の人間となって住まわれるのです。それぞれに読まれる聖書の箇所は、神がこの世に来られて人生を生きることにについて考えさせます。待降節を本来の意味で霊的に体験することによって、はるかに豊かなクリスマスをむかえることができます。

教会の祈りは、ヘブライ人のメシア待望、洗礼者ヨハネの回心の呼びかけ、イエスがお生まれになる世界の現実を思い起こさせます。

待降節第一主日に流れるテーマは夢です。イザヤは平和と調和の世界が来ることを夢想し、神の平和が世界に全開する理想を描きます。洗礼者ヨハネは、この夢に答え、神の支配が近づいていることを宣言します。最後の第四主日では、夢が神から人への語りかけとなります。初めの夢では、み使いが（マリアの懐妊で）驚きと困難な出来事に直面していたヨセフに、それが神の業であることを知らせます。

「聖家族」の福音では、ヨセフにマリアと幼子イエスを連れて、ヘロデの怒りを避けるためエジプトへ逃れるように促し、後の夢はエジプトを発ち、ナザレに行くように示します。「主の公現」の福音では、占星術博士達にヘロデ王を避けて別の道を通って帰るように警告しま

す。

耳を傾けて聞けば、神は話しかけてくださることがわかります。神は励まし、警告し、導き、案内してくださるのです。

あわただしい現代社会にあって待降節に、立ち止まって古い話に耳を傾け、私たちの将来を預けるのは難しいかもしれません。しかしあえてそうするならば、驚くべきストーリーの持つ、永遠の真理がわたしたちを変容させます。神が私たちと共におられるのです。神が共にいてくださるなら何事も可能です。

イザヤ預言書にあるように、ライオンと子羊がともに横になる。子供がわたしたち大人を道案内する。砂漠に花が開くのです。丘は低くなり、谷は埋められ、力あるものはその座を追われ、飢えた者はよい物で満たされるのです。旅をしましょう。夢を追いましょう。

11月半ばから、信徒の皆様にお手紙をだしました。待降節をよりよく過ごす為に、「トミーについて…」「エッセイの木カレンダー」「回心のための究明箇条」3通です。復習のための道具です。お役に立てば幸いです。

社会問題に向き合う	2・3面
委員会等報告	4面
典礼委員会議事録	5面
大人の日曜学校	6・7面
おしらせ・教会学校	8面

社会問題に向き合うカトリック教会の基本姿勢

Q14 信徒の政治的姿勢を導く具体的な指針が教会にはあるのですか？

A. どういう政治体制、あるいは政党や政策を支持するかは、一人ひとりの信徒が自分の良心に従って決めることですが、その良心を導くための倫理的枠組みがあります。教会自体は何ら政治的計画をもってはいませんし、特定の政治体制、社会体制、経済体制等を規定しようとするようなことはありません。確かに、社会問題を指摘し、解決を呼びかけることはあります。また、特定の政治姿勢や社会に対する方針を是認し、支持を呼びかける場合もあります。しかし、通常これらは、信徒の良心を導くことや一般の人の良心にアピールするためであり、特定の結論を強要しようとするものではありません。ましてや、特定の政策、政治体制、政党、法や法体制を規定し、それに従うことを信徒に義務づけるようなことは一仮に極端な状況において、それがありうると考えても一通常はありません。教会が目指しているのは、社会や政治に関わっている人々の良心を照らすことです。教会が信徒に期待する根本的な政治的姿勢は、教会の教えに照らして自分の良心を育成し、その良心に従って社会や政治に関わることです。教会が求める信徒の政治的姿勢に関して、少なくとも次の三つのことがいえるでしょう。

(1) かかわりをもつこと

教会は、具体的にどのような関わり方をするかについての判断は信徒自身に任せますが、社会にかかわること自体は、信仰生活の重要な側面であると認識しています。教皇パウロ六世は「信徒の皆さんの役割は、受身的に命令や指針を待たず、自由な発意をもって生活している共同体の精神、風習、法律、組織にキリスト教的精神をしみ通らせることです」と述べています。そしてこの役割を果たすことにおいて、信徒がかかわる領域に関し『教会

の社会教説綱要』は、「家族のことであり、労働、文化、学術、研究の領域における専門的な務めのことであり、また社会、経済、政治」とであると述べています。どのような分野に重点を置くかに関しては個人差があるとしても、市民一人ひとりが主権にあずかる民主主義体制においては、政治が多かれ少なかれすべての信徒にとってこの役割の遂行の場となるでしょう。教皇ヨハネ・パウロ二世は「信徒は『公共生活』への参加を放棄することは絶対にできません。公共生活とは、組織的にまた制度的に共通善を促進することを目的としている経済、社会、法律、行政、文化上の多様な分野を意味しています」と述べています。

(2) 方向性を示す

教会は具体的な手段、政策、体制は示さずとも、その方向性は示しています。それは特に教会の社会教説の根本原理と基準によって示されています。これらはすでにQ2において取り上げました。すなわち、人間のいのちの尊厳、共通善、この世の物は万人の為にあること、補完性、参画、及び連帯の原理です。

人間のいのちの尊厳は基本的で、社会がその尊厳を尊重し、擁護しなければならないことは基本的な前提です。この世の物は万民のためにあるという原理はその尊厳に直結しており、すべての人が自分の生命を維持するために必要な物質財を手に入れる権利があり、この権利が他のあらゆる権利より優先し、構成員のすべてが生命を維持するための衣食住を手に入れることができるように社会が組織されなければならないことを意味します。

補完性、参画、および連帯は相互に関連の深い原理であり、人間が互いにつながり合うよう創造されていることを前提とし、家族の関係等を含めた人間一人ひとりの重要な関係

が尊重されなければならないこと、社会に十全に参画する可能性が一人ひとりに保障されなければならないこと、そして社会がより充実した一致に向かう必要があることを主張する原理です。補完性の原理は、社会や国家などの集団に所属する個人、家庭、小集団等は、その主体性が損なわれてはならず、より大きな集団は、個人、家庭、小集団の力が及ばないところで補うものでなければならないことを意味し、一人ひとり、あるいは小集団に、適切な自由が保障されなければならないことを主張する原理です。参画は差別、除外、周縁化を否定する原理です。連帯の原理は、人類が究極的には一大家族であり、各社会集団が究極目的として、全人類規模での一致と和解に向かうべきであることを意味します。

共通善の原理は、ある意味で上記の原理を総括する原理です。教会の社会教説には、「すべての人の全人的善」もしくは「すべての人の全人的発展」というような表現がしばしば見られます。この場合の「すべての人」とは、個人としての一人ひとりを指すと同時に一大家族としての全人類を指します。共通善の原理は、前述の原理とその原理に由来する権利は分割できないことを意味します。それは、この世の物は万民のためにあるという原理、補完性の原理、連帯の原理を相互に切り離し、あるものを満たしあるものを損なわせることはできないことを意味します。たとえば、補完性の原理に反して自由が損なわれる人にあっては必然的に連帯の充実も損なわれ、生きるための必需品を手に入れる可能性も危ぶまれます。これらの原理、そしてこれらの原理から派生する権利は相互に関連づけられており、総合して求められなければならないなりません。それと同時に、これらの原理を、ある社会集団には適用し、ある社会集団に適用しないという形の「分割」もできないことをも意味しています。人々の善は互いにつながっており、特定の人の善が損なわれているなら

ばすべての人の善に支障があり、特定の人の権利が損なわれるならばすべての人の権利が危うくなります。ですから、人間一人ひとは自らの善のみを求めるべきではなく、自らの善がすべての人の善につながっていると認識して、すべての人の善を求めるべきなのです。とくにキリスト者一人ひとりを含む教会の取り組みは、右記の原理が十分に適用されておらず、右記の権利が十分に満たされていないすべての人に目を配るものでなければなりません。

(3) 糾弾および否定の側面

教会が具体的な政策等を規定しようとしないうということ、人権や道徳に反する具体的な政策を否定する、もしくは糾弾する可能性を排除するものではありません。『教会の社会教説綱要』には「社会教説は、社会をさまざまな形で動かし、社会の構造の一部となってしまう不正と暴力の罪を糾弾する義務も負っています。公然たる糾弾によって教会の社会教説は、無視され、侵害された権利—とくに貧しい者、小さい者、弱い者の権利—の審判者、またその擁護者となります」とあります。それに伴って、人権や道徳に反する政治計画への信徒の加担も否定されます。たとえば、妊娠中絶を容認する法に関しては、信者は支持すべきではない（つまり、実際にある選択肢のうち、生命をもっとも守るものを選ぶべきである）と教皇ヨハネ・パウロ二世は指摘しています。道徳に反する他のことに関しても、「支持すべきではない」という教会からの指示はありうるものです。『教会の社会教説綱要』でも触れられていますが、一九三〇年代に当時の教皇ピオ十一世が、ナチス政権への協力を控えるようドイツの信徒に呼びかけたことは一つの例となります。しかし通常は、各国における教会の姿勢に関し教皇庁は介入せず、それはその国の司教に任されています。本書の付録に示しているとおり、特定の問題について各国の司教協議会が自国の信徒に対して呼びかけをしています。

委員会等報告

2013年11月分

11月度小教区委員会

11月3日

1. 前委員会の議事録確認

- ①敬老のお祝い会 最終確認
- ②聖書朗読のグループについて
- ③巡礼バス旅行について
- ④駐車場の看板について

2. 先月の行事報告(抜粋で記述)

- 9月8日(日)敬老お祝い会 参加32名
- 9月15日(日)入門式 2名
中村さん、宮本さん
- 9月23日(月)巡礼旅行 参加44名
- 9月27日(金)ホームレス支援炊き出し
- 10月6日(日)正門祝福式
- 10月20日(日)大人の日曜学校
参加36名
- 10月27日(日)聖書朗読グループの集り
参加20名

3. 議題

- ①年末大掃除について
 - ・12月15日(日)予定。
外壁を高圧洗浄機を使って行いたい
- ②クリスマス飾り付けについて
 - ・11月24日(予備日12月1日)
クリスマスイルミネーション飾り付け
 - ・12月15日(日)馬小屋設置
博士像は、最初から馬小屋に置くのではなく、待降節の間、少しずつ馬小屋に向かって移動していく。
- ③降誕前夜祭・ミサ後のパーティーについて
 - ・炊き込みご飯・だご汁を各100食作る。
 - ・抽選会
- ④元旦ミサと祝賀会について
 - ・31日23時から、ホーリーアワー
1月1日0時と10時からミサ
 - ・10時のミサ中に、成人のお祝い。ミサ後車の祝福、茶話会を行う。

4. 各委員会

- 典礼委員会より
 - ・11月より聖書朗読者席を、祭壇に向かって左中央に変更した。
 - ・子どものミサに参加する子どもが少ない。取り組み方を考えないといけない。
- 営繕委員会より
 - ・教会聖堂の建物診断をしてもらった。雨漏りの危険性がある箇所や壁のひび等、指摘された。今後補修を検討していく。

5. その他

- ・信徒会館スリッパの買い替え
見積もりをお願いしている

6. これからの活動(主なもの)

- 11月10日(日)ミサの中で七五三の祝い
ミサ後結婚式
- 11月23日(土)教区の日
- 12月13日(金)共同回心式
午前10時、午後7時30分
- 12月22日(日)街頭募金
- 12月24日(火)降誕前夜祭
午後7時30分から
ミサ後パーティー
- 12月25日(水)降誕祭 午前10時から
ミサ後茶話会
- 12月31日(火)午後11時からホーリーアワー
- 1月1日(水)午前0時、10時からミサ
10時のミサ中で成人のお祝い
ミサ後車の祝福 祝賀パーティー
- 1月12日(日)クリスマス片づけ

2013年度 第4回 典礼委員会議事録

開催日時：2013年11月17日(日)ミサ後 場所：信徒会館

《報告事項》

1. 10月のロザリオは、9時より開始して5連を唱えることができた。
2. 朗読奉仕流儀の統一について
朗読台の位置を祭壇下に変更、朗読者の席変更(豊田神学生による研修会より)
3. 11月1日のミサ(キム・オディロン神父)約30名参加
4. 「追悼の祈り」を再編集して、小教区追悼ミサで使用。納骨式で使う。
5. 共同回心式(水巻教会)12月13日(金)午前10時 午後7時半

《審議事項》

1. 朗読奉仕の今後：ミサの第1第2朗読は、地区などから選出した朗読者で研修会を開催し、朗読当番表を作成、意見交換しながら充実させる。引きつづき朗読希望者を募集する。
2. 主日ミサ参加人数の把握：献金の間にカウンターを使って、参加人数を数えて記録する。主日分は馬込次郎氏あるいは岡田芳博氏が担当する。
3. クリスマスの典礼について
待降節の準備を工夫する(終末と再臨を待つ)クリスマスの輪は12月1日以前に田中税氏、久保園明光氏が作成。
馬小屋は降誕祭直前(15日)に設置予定。聖堂外部のイルミネーションは、11月24日あるいは12月1日に取り付け。
降誕祭ミサ：24日(火曜日)19:30 従来のパンフレットを使用する。
教会学校の子供たちが「あめのみつい」「きかせてください」をリコーダーで演奏予定。
司会の変更：降誕前夜祭(樽角氏→田中拓氏)元日ミサ(田中氏→樽角氏)
4. 12月31日23時よりのホーリーアワーの黙想と聖書朗読、0時からの元旦ミサ。
5. その他
 - ・ 葬儀の伴奏CD作成には、既成のCDから必要な演奏を選び、CDRで作成してはどうかという案。三谷氏、豊岡氏で来年2月ごろをめどに作成予定。
 - ・ 聖体拝領前に未洗者は、拝領出来ないこと。祝福を受けることができる旨アナウンス文言を司会マニュアルに追加する改訂版を了承。
 - ・ 子どもミサの朗読は、中学生の協力をえて実施する。





大人の日曜学校（10月20日、ミサ終了後実施）の報告

この大人の日曜学校においては、マヘル神父によるこの「大人の日曜学校」の趣旨説明があり、それから3人の信徒の信仰の証し(私の信仰の道)がなされました。(松尾隆さん、柴田香菜さん、宗友次さん)

<今回の日曜学校の趣旨(要約)>

信仰について考えるにあたって、それ以前に、人間的な信用のプロセス(人から人へ話しかけるプロセス、打ち明けるプロセス)が大切です。信用のプロセスを具体化する形態を考えてみれば、AさんがBさんに自分を明かす場合、次の様な状況となります。Aさんが自らを明かすのは自由な方法でよく、それを受け取るBさんは、それをしっかり受け留める態度、謙遜な心が必要で、この受け取る態度がコミュニケーションを決めます。

以上述べた人間どうしの信用のプロセスは、宗教的な信仰のプロセスにおいても、同じ事情となります。今日、私たちが関わる、聖書・教会の教えに対しても、私たちは心の眼を開く必要があります。今日は3人の発表を聞き、しっかり受け止めてください。

『幼児洗礼の恵みの中で』 松尾 隆(遠賀地区)

私は今、自転車と言えば下り坂を進んでいて、今や、スピードアップしているところが(笑)。

振り返ってみて、私は幼児洗礼で、それが私にとって大きな恵みでした。そのことについて、これから話して行きます。

私の両親は長崎出身なのですが、私はピョンヤンで生まれ、大連、旅順と幼児期を暮らし、小学2年生で長崎に戻りました。そこで原子爆弾投下に見まわれました。特に父の実家は被爆地に近く、父の両親をはじめ多くの親族が亡くなり、焼けて何も無い瓦礫だらけの場所と、傷を負った人を見ました。それから半年ほど、私は病に臥せたのですが、病院に行ったことも、薬を使ったことも記憶はなく、その日、暮らすことが精一杯だったのだと思います。その何も無いところに、家族5人が引き上げてきて、両親の苦労は想像に絶するものがあったと思います。

それから、30分~1時間歩いて、母に浦上教会に連れて行かれました。教会に行くことは嫌いではありませんでした。高学年になって、カテキスタの家に通いましたが、それは土日ではなく普通の日だったのですが、それも楽しくてたまりませんでした。ただ、公教要理の内容が頭に入ったかという、当時、先生に質問されて、素早く答えられるのは女の子で、自分は駄目でした。小学6年で受けた堅信の時も、指名されましたが、答えることはできませんでした。

少しも嫌な思いがなかった教会だったのですが、社会人になる頃から私の心には、微妙な変化が生じました。当時のミサの状況は、聖書の使用にはほど遠く、使っていたのは公教祈祷書で、また、それを特に利用するのは、告解時の罪の究明の箇所。それを守ることができないと罪の意識に悩みました。これらのことから教会から心が離れて行きました。母は教会へは遅れないようにしつこく言われたのですが。しかし、そういう中、困ったことに、転居した自宅と会社の位置関係により、通勤の道から1～2分で浦上教会に行ける距離で、朝の鐘、お告げの鐘の音も聞こえてくるし、悶々とその前を通っていました。

そんな時、高度成長期のおかげで三菱製鉄と新日鉄が合併。これにより、職場が移転となり、北九州の地(芦屋)に引っ越しました。そこでは教会の鐘は聞こえず天国と思いました。しかも、やかましく小言を言う母もいない。

しかし、家内が4人の子を引き連れて、芦屋から教会に行っております。しばらくは「勝手にしろ」という態度を取っていましたが、それがだんだん私の重荷になり、なんとかしなければと思うようになりました。丁度、社会では高度成長の陰り。従業員も減らされてゆきました。そんな折り、今度は少しずつ、足が教会に向かうようになりました。ただし、ミサの説教は耳には入りませんでした。そのうちに、ラバルタ神父のおかげで、聖書を知りましたが、本は1頁目から読むものと思い込んでいた私には、最初は、何がなんだか分かりませんでした。

思い起こせばラバルタ神父出會いは次の様なものでした。ある日曜、私が教会から帰ろうと思ったところで、ラバルタ神父から「どちらの信者ですか？」と話しかけられたのです。実はその時すでに、芦屋に来て10年が過ぎていたにも関わらず。それからラバルタ神父の聖書研究会に通ったのですが、ほとんどマン・ツー・マンの指導でした。そのうち、神父は、ベリオン、ガイアール、ハーン師と変遷、途中でバスティー神父からは旧約聖書を学びました。特に、ベリオン、ガイアール師の時代では、休んだことはありませんでした。現在もこの聖書研究会は、水曜の午後7時からの「聖書の分かち合い」として続いているようです。一人でも多くの方が、み言葉に出会い、今後も続くようお願いものです。

物心ついたころからカトリックの環境で育ち、母に教会に行くことを教えられて始まった信仰の道。反発することもあったが、離れることはできなかった、そして不思議な出會いがあった。これらは、幼児洗礼の恵みと思っています。

母は、私が教会に行くことについて以外、厳しい言葉を発したことはなかったのですが、この言葉に今、感謝しています。母の気持ち、また妻の支えが、私への祈りの言葉であったことに気がついたのは、ずっと後になってからでした。私は、復活、永遠の命、聖徒の交わり(両親、懐かしい人が天国で聖人たちと交わっていること)を信じています。み言葉が私を成長させてくれたことに感謝します。

12月のおしらせ

★特別献金★

○10月20日 世界宣教の日
32,900円
ご協力ありがとうございました。

★共同回心式★

日時 12月13日(金)
午前10時30分～ 午後7時30分～
場所 水巻教会

なお、この日が都合の悪い方は、他の教会の共同回心式の日程は、「信徒教だより」に載っていますので、ご覧ください

★街頭募金について★

日時:12月22日(日)
時間・場所は未定です。
今年是有志で行います。詳しいことは、教会のお知らせをご覧ください。

★レプトン会からのお願い★

伊万里のトラピストのクッキーとミサワインの申し込みを12月8日まで受け付けます。売上金はペルーへの支援の一部となります。申込表は聖堂の後に置いてあります。品物は12月24日クリスマスミサ後にお渡しします。

★降誕前夜祭・降誕祭ミサ★

12月24日(火) 午後7時30分～
12月25日(水) 午前10時～

★深夜ミサ・元旦ミサ★

12月31日(火)午後11時～
ホーリーアワー(祈りの時間)
1月1日(水)午前0時 深夜ミサ
午前10時 元旦ミサ



教会学校のページ

10月27日

ルカによる福音18節9章～14章を読み、他人を見下すということはどういうことか、へりくだる者は高められるということはどういうことかを、いろいろな事に例え、イエス様の言葉をみんなで学びました。

11月10日

- 待降節の祈りの花束の説明(絵を飾る)
- 聖書を降誕祭に向けて、毎日のカレンダーに合わせて読んでいきます。
- クリスマスカード作りをしました。